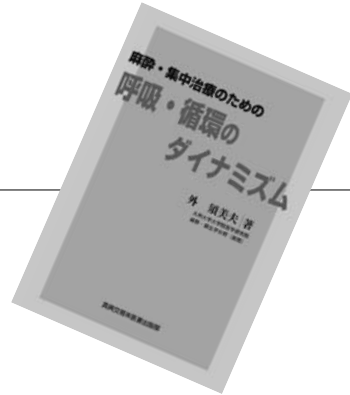


外 須美夫 著

## 麻酔・集中治療のための 呼吸・循環の ダイナミズム



外須美夫先生の代表的な著書の1つである「呼吸・循環のダイナミズム」が改訂された。改訂に合わせてサブタイトルが「学生から臨床医まで、呼吸・循環の体系的理解のために」から「麻酔・集中治療のための」に変更された。また、本の大きさがかなりコンパクトになり、改訂前のものと比べると随分読みやすくなったというのが最初の感想であった。前作が出版されたときにはちょうど生理学と麻酔科学のブリッジの本だと考えたが、今回の改訂で、その思いがさらに深くなった。日頃、臨床の麻酔で起こっている現象を生理学の観点から理解し考えることができるという麻酔科医にとって待望の本が出たと思ひ、出版から毎年、新医局員に薦めている。

本邦では、呼吸と循環に関しては各々の分野でみれば素晴らしい本が出版されている。しかし、呼吸と循環の両方に関連する本は余り見当らず、かつ、麻酔科医にとって、それまでの麻酔科学の教科書ではもの足りなく、生理学の教科書ではちょっと重過ぎるといった状況を改善させた本でもあった。

今回も基本的な構成は前回と同様に呼吸系ダイナミズムから始まり、循環系ダイナミズム、呼吸と循環の相互作用、呼吸、循環管理となっている。個々の章は関連性を持ちながらも独立しており、どこから読んでも理解できるように配慮されている。特に第9章「静脈還流からみた循環系ダイナミズム」と第10章「心室圧-容積関係からみた循環系ダイナミズム」、第11章「循環調節ダイナミズム」などの循環系ダイナミズムが個人的には最も興味のある内容となっている。最後に、新しく第19章「周術期の

- ・真興交易(株)医書出版部
- ・2011年6月5日 第1版第1刷発行
- ・A5判/314頁/並製本
- ・定価(本体5,800円+税)
- ・ISBN 978-4-88003-852-0

呼吸・循環ダイナミズム急変時の対応」と、さらに「付録」として呼吸・循環ダイナミズムに関連する薬剤に関する章が加筆された。本の大きさがコンパクトになり麻酔・集中治療の臨床現場に直結するという著者の意図がより鮮明になったと考えるのは考え過ぎであろうか。前回よりも小型になった分、持ち運びが楽になり、疑問に思ったときはいつでも、どこでも直ぐに読んで参考にできるという利便性の高さは大きな改善点であると考えられる。その上、定価が9,500円から5,800円と値下げされており、格段に購入しやすくなっている。本書は初期臨床研修医や若い麻酔科医がぜひ一読すべき本である。マニュアル本にはない呼吸と循環系ダイナミズムをぜひ感じていただきたい。

ただ、惜しむらくは前回では各章の始めに挿入にされていた秀逸な短文が改訂版ではなくなっていることである。外先生の著作に対する思いが感じられただけに残念でならない。是非、次回の改訂では再掲されるようお願いしたい。

館田武志

(聖マリアンナ医科大学麻酔学)